

世界最高水準の観光施設の必要性 ～大阪城プロジェクト～

○考え方

- ・大阪には、数多くの魅力ある観光資源があり、数多くの外国人が訪れている。
- ・この動きを継続、発展させるためには、引き続き府内の観光資源を磨くとともに、「これぞ大阪」と言えるような、突き抜けた存在の観光施設が必要である。
- ・大阪に来た人が必ず訪れ、季節、時間帯を問わず、誰もが楽しむことができるものとし、世界の有名観光施設に肩を並べるものにしなければならない。
- ・また、大規模イベントの開催や消費を促す仕掛けなど、経済効果を生むようにする。

○候補 大阪城

(理由)

- ・真言宗の拠点となった石山本願寺を経て、豊臣秀吉の天下統一の象徴となる城が築かれ、戦国最後の戦と言われる大坂冬の陣、夏の陣があり、明治維新の舞台の一つになるなど、時代のエポックに登場する場所であり、日本の歴史を体感できるところである。
- ・城の西南には、難波の宮跡地があり、さらなる歴史の広がり期待できる。
- ・すでに、大阪のランドマーク的存在であり、年間大阪城天守閣だけでも、年間数百万人が訪れている。
- ・広大な敷地を有し、様々な事業展開が可能である。
 - *現状では、大阪城内で消費できる店や機会が薄く、経済効果を生み出していない。

○事業内容イメージ

①大阪城自体の魅力を高める

- ・既存施設のリニューアル（魅力あるレストラン、物販施設など）
- ・豊臣、徳川時代の建物復元（歴史ある施設に相応しいもの）

②観光客がいつ来ても楽しめるようにする（エンターティメント性を高める）

- ・城を利用した一大イベントを定期的に（例えば2年に1回）を開催
（世界中から、このイベント目当てに観光客が来るような超一級のもの）
- ・城内のあらゆるところで日々、観光客を飽きさせない様々なイベントを開催

③周辺との連携

- ・難波の宮を整備し、歴史を感じさせる仕組みを構築
- ・OBPや森ノ宮などと連携し、大阪城と回遊できるようにする。

○課題

・地元調整

＊野球場、少年野球場など、市民の憩いの場所となっている。

・規制緩和

＊大阪城本丸を含む主だったエリアが特別史跡（文化財保護法）、その他も都市公園法に基づく公園エリア

○今後の進め方

大阪城を世界最高水準の観光施設にするため、関連する規制緩和や、関係者との調整を進め、世界でも突き抜けた文化・エンターティメント施設としていく。

